

# 議会 報告 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所  
雲南市加茂町神原 733-4  
電兼 FAX 49-6373



## 3月定例会 3/1 ~ 3/22

3月定例会が3月1日から22日までの会期で開会されました。本定例会は、令和3年度当初予算を決めるとともに石飛市長にとり初の定例会となりました。

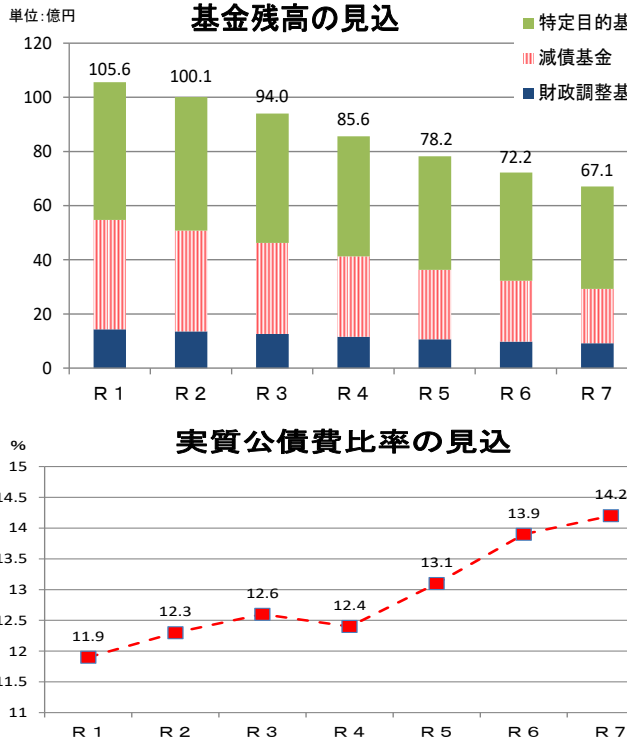
年末年始の令和3年度予算の編成時に市長選挙が重なったため、予算は骨格予算となりました。また、話題となっていた「サッカー場建設」「食の幸発信推進事業」については新市長の考え方を反映させることができなかったため、当初予算には盛り込まれませんでした。

会期中、石飛市長は所信表明や一般質問において「サッカー場建設」「食の幸発信推進事業」については早急に検討を進め、方針が定まった後に示すとなりました。

## 令和3年度一般会計当初予算

令和3年度一般会計の予算規模は2百73億7千万円（前年度比▲20億円）となりました。主な歳出は次の通りです。

主な新規・拡充事業（歳出） 千円	
《協働・行政経営》	
加茂交流センター整備事業	498,742
ふるさと納税推進事業	141,340
分庁舎（水道局）整備事業	139,588
《定住環境》	
高速道路整備関連事業 （加茂バスストップ、スマートインタ）	481,536
《保健・医療・福祉》	
新型コロナワクチン接種事業	168,498
加茂子ども園業務委託事業	165,656
《産業》	
畜産収益力強化施設整備事業	61,345
森林整備・木材利用促進事業	39,597
消費喚起支援事業（コロナ）	22,100
《その他》	
衆議院議員選挙	40,902



歳入面では市税が37億1千万円余（コロナの影響で前年度比▲1億8千万円）となった一方、地方財政を国が補てんする交付金は138億円（+2億3千2百万円）になりました。

### 主な歳入 百万円

《市税》	3,714（前年比▲179）
市税	3,714
《地方譲与税》	216（同▲79）
地方譲与税	216
《交付金》	13,800（同+232）
地方消費税交付金	650
普通交付税	11,680
特別交付税	1,350
その他	120
《国・県支出金》	4,317（同+631）
国庫支出金	2,573
県支出金	1,743
《繰入金》	1,049（同▲282）
財調・減債基金繰入	600
その他	449
《市債》	2,830（同▲2,311）
市債	2,830

収支不足を補うため繰入金（基金の取り崩し）は3年連続の計上となります（令和2年度見込4億2千万円、令和3年度予算6億円）。市債（借金）は大型建設事業が一段落し28億3千万円（前年比▲23億円余）となりますが、償還は今後も続くため実質公債費比率は上昇します。

## 市長所信表明について

定例会初日に市長所信表明がありました。発言要旨は次の通りです。

- ◎これまでの市政を尊重しつつ時代や社会の変化に対応し必要な修正を加える
- ◎是々非々の姿勢で市民本位の行政
- ◎市民に寄り添う政治、プロセスを重視した市政運営
- ◎最大の課題である人口減少問題に取り組む、持続可能な地域づくり
- ◎故郷への愛着、雲南の文化や暮らしに誇りや胸を張れる（＝雲南プライド）街づくり
- ◎「コウノトリと共生するまちづくり」を基本としつつ、当面の課題としてコロナ対策およびその経済対策を重点的に取り組む。

## 一般質問の主な論点

- この所信表明に対し、3日以降の会派代表質問、一般質問における答弁では、様々な諸課題について「今後の委員会で方向性を提示」「6月定例会で明らかにする」とのことでした。多くは先送りでしたが、①早急にコロナ経済対策を実施するため6月議会までに臨時会を開催
  - ②「コウノトリ条令」の制定について表明がありました。
- 石飛カラーを反映した具体的な施策展開は今後の臨時会、定例会で明らかにされることとなります。市民生活に寄り添った事業、予算編成を期待します。

- 3月3日の会派代表質問（政友クラブ、明誠会）には2人の議員が、4日以降の一般質問には14人の議員が諸案件について質疑を展開しました。多かった論点は、①市長の政治姿勢について
- ②コロナ禍における経済対策
- ③人口減少対策
- ④農林畜産業の振興策

- ⑤木次線対策
- ⑥コウノトリ

等でした。石飛市長の政治姿勢について質す議論が多かったのは、初登板だったので当然と言えます。そして、現下のコロナ禍に苦しみ飲食業や関連事業者等への早急な支援を求める声など経済対策についても多く取り上げられました。

また、2月18日、JR西日本の長谷川一明社長がローカル線の存廃議論に触れたことから4人の議員が木次線対策について取り上げました。（木次線は小職も取り上げました、裏面をご覧ください）

## 議会、変化の兆し

主な論点で取り上げた項目以外で2人の議員が教育支援コーディネーター制度の廃止について質しました。

本制度は平成18年に発足し、雲南市におけるキャリア教育プログラムの推進や支援など大きな成果をあげてきました。関係者（一般市民や議会も含め）に対し、十分な議論や説明もされないまま突然この3月末をもって廃止、地域コーディネーターに統合することになったことに関する質問です。景山教育長が厳しく追及された一幕もありました。結果、1年かけて再検討することになりました。プロセスを重視した透明感のある行政運営が求められています。行政のチェック機能は議会、議員の大切な仕事です。

議員が大幅に入れ替わって2回目となる定例会でした。様々な視点で幅広い議論がなされたことは歓迎すべきことです。一般質問の終了後、議員間で「議会が変わったな」との囁きが漏れ聞こえました。

## 高木教育委員再任

3月末で教育委員の任期を迎えられる高木広明氏の再任に全会一致で同意しました。引き続きのご活躍を祈念します。



中林たかしの一般質問

所信表明について

問

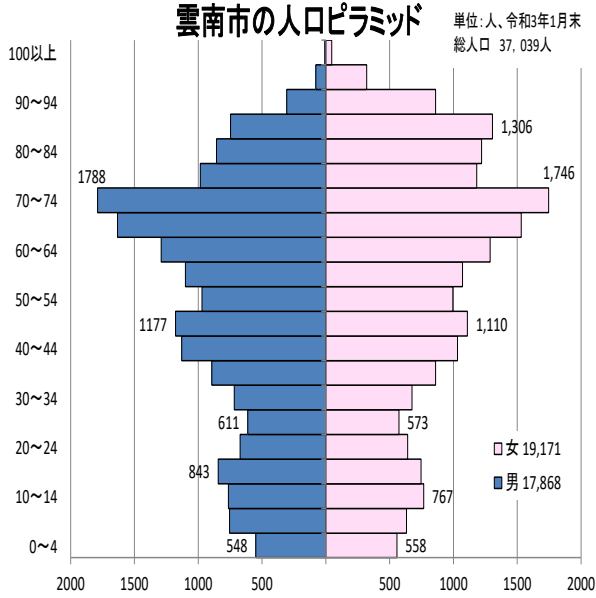
本市の抱える最大の課題は何か、それに対し特に何を重点項目として取り組むか。

答（市長）

当面の優先課題はコロナ感染防止と経済対策だ。本市の抱える一番の問題は人口減少問題と認識している。真正面から取り組み人口増加へ転換を目指す。

問

人口減少に対する認識は同じ。ただ、現状は厳しく、2月末現在で3万7千人の台をきった。特に20代前後の若年層の流出が大きな問題だ。



答（市長）

若者が住み続けたいと思うことが大事。「雲南プライド」をキーワードに街づくりを進める。雲南の良さ、誇りを胸に認識、発信してくれるような若者を増やしたい。

問

もう一つの問題が少子化だ。加えて地域間格差が生じており対策が急務だ。

答（市長）

子供を産み育てる若い世代が特に少ない。雲南プライド以外に医療、介護、出産や子育て環境の整備を進める。更に農業を

基本に若者が稼ぎを得られる仕組みも必要だ。あらゆる分野で総合的に対策を進め、出生数を増やし市外への転出抑制を図る。

問

人口減少が子供の教育格差につながってはならない。処方箋を伺う。

答（市長）

教育格差があつてはならない。学校規模の差はあるが各校が創意工夫して取り組むことが大切だ。

答（教育長）

規模によるメリット、デメリットを少なくする手段としてGIGAスクール構想がある。一人1台のタブレットにより個別学習を進めていく。

問

規模のメリット、デメリットは理解するが、男女合わせ全校生徒8人の中学校では野球などの部活もままならない。少子化は教育委員会だけの問題ではない。

答（市長）

この現実には衝撃的。地域全体で補完できる方法やU・イターン促進に努めたい。

問

海潮地区の地域要望として交流センターや児童クラブの建設等があがつているが、実施計画によれば今後5か年では計画がない。市民に寄り添って計画の進捗を図るべきではないか。

答（市長）

指摘の件は重要なものと認識している。実施計画は財政上の見通しとの整合性を図りながら毎年見直しを進めている。私も着任着間もないところ、早急に関係者との協議を進めて計画を示していきたい。

問

実質公債費比率が上昇している中、今後学校建設等の大規模工事が目白押しで財政硬直化が懸念される。今後の見通しは。

答（市長）

人口減少問題を重要課題と位置付け、効果が高いと見込まれる事業に優先的に取り組んでいく。今後、実質公債費比率の上昇

が見込まれるが交付税動向など睨みながら健全な財政運営に努めていきたい。

問

2大プロジェクト（サッカー場、食の幸発信事業）の今後の進め方について伺う。

答（市長）

十分な精査と開示、協議を重ねたうえでの合意形成が重要だ。プロセスを大事にして議会に諮りながら進める。

産業政策について

問

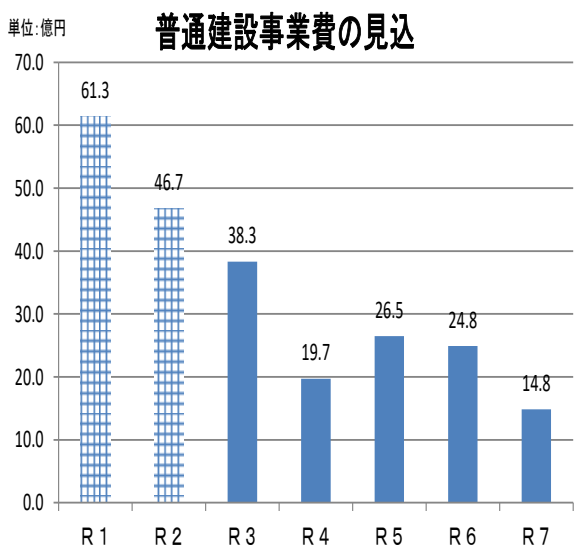
農業振興について決意と所見について伺う。たたら焰米の補助も継続すべきだ。

答（市長）

農業振興は基本的に売れる農業、儲かる農業の実現をキーワードとする。産業としての農業と地域を守る農業を両立し、地域で農業を続けたいと思う施策を展開する。

問

建設業も重要な産業だ。普通建設事業費は今後、先細り状態だが対策は十分か。



答（市長）

中期財政計画は毎年見直しを行っており将来を約束するものではない。公共工事の発注量には配慮していく必要がある。

問

公共工事における指名審査会の透明性が問われている。審査基準等、審査会の情報公開はするか。

答（市長）

請求内容及び理由を総合的に勘案して判断する。公表できるものは公表する。

問

テレワークが進む中、首都機能の一部を本市に移転し雇用確保してはどうか。例えば、国立国会図書館は可能と思うが所見は。

答（市長）

現時点ではアイデアを持ち合わせていないが、地方創生や地方への分散といった観点で上京の折、働きかけていきたい。

木次線対策について

問

JR西の長谷川社長がローカル線の存廃議論に触れた。木次線が廃止とならないよう、鉄道事業法の再改正やJRの再国有化を国に強く働きかけるべきではないか。

答（市長）

木次線は通勤通学など日常生活を支える交通手段、そして重要な観光資源と認識している。関係機関と連携するとともに国、県ともしっかりと話を進めていく。

問

木次線利活用推進協議会の負担金増の予算が示された。定期券補助に充てるとのことだが木次線内だけの補助対象ではなく松江等まで含めた補助としマイカー通勤からの誘導を促すべきではないか。

答（政策企画長）

モニター調査を踏まえ検討する。

結

モニター調査など悠長なことを言っている時期ではない。今しなければ明日はない、即刻対応する気概が欲しい。

3月末までに桜の見ごろを迎えました。温暖化のせいでしょうか。議会では、市長と議員構成が大きく変わりました。一方、旧態依然として変わらないところも多くあります。市民生活の向上、明日の雲南を創生する意気込みが求められています。